

取組 1 ダイバーシティ研究環境整備強化

1 研究支援員の配置

広島大学に所属する研究者が、妊娠・育児・介護により研究時間の確保が困難になった際に、研究者の指示の下に研究補助業務に従事する研究支援員を配置することで、研究とライフイベントの両立を推進することを目的として2017(平成29)年度から支援を行っている。この制度は同時に、研究支援員にとっても将来についての様々な学びや自身の研究に関わる貴重な経験を得ることができる機会となっている。

<対象者>

本学と雇用契約を結び、本学を主たる研究の場としている大学教員(教授、准教授、講師、助教、助手)及びフルタイム勤務の教育研究系契約職員(特任教員、寄附講座等教員、共同研究講座等教員、病院助教、外国人研究員、研究員、特別研究員、病院診療医に限る)のうち、次の①～③の申請理由のいずれかに該当し、かつ申請要件をすべて満たす者。

<申請理由及び要件>

■理由 ①～③のいずれか

- ①妊娠:妊娠中である
- ②育児:12歳に達する日以後最初の3月31日までの子を養育している
- ③介護:介護認定(要支援認定含む)を受けている父母その他家族を申請者自身が主として介護している

■要件 (a),(b)を満たす者

- 女性 (a)産前産後休暇、育児休業、介護休業その他休業・休職中でない者
(b)配偶者が原則フルタイムで勤務している者、単身者又は配偶者のいない者
- 男性 (a)育児休業、介護休業その他休業・休職中でない者
(b)配偶者が、大学、大学共同利用機関又は独立行政法人等で研究者としてフルタイムで勤務している者

<支援実績>

2018(平成30)年4月～2019(平成31)年3月の実績 ※いずれも前期・後期利用者の、のべ人数。

■利用者内訳

	計	教授	准教授	助教	その他(研究員)
男性	2	0	2	0	0
女性	27	1	11	14	1

■申請理由

	妊娠	育児	介護
男性	-	2	0
女性	0	26	1

<支援内容>

実験準備、実験補助、実験器具の洗浄、実験の後片付け、論文調査、データ収集、データ分析、データ解析、データ入力、等

<利用者の声／研究推進における効果(抜粋)>

- 研究支援員の支援により(1)基礎データの分析を複数の視点で行うことができ、分析結果の信頼性・妥当性を高めることができた(2)追加データの調査におけるスケジューリングやフォローアップ等してもらえ、より多面的にデータを得ることができ、研究推進に大きく貢献してくれた。(文系教員・女性)
- 外部資金獲得や研究環境セットアップに時間を要する中、実験の前準備や補佐を依頼することで効率よく研究を進めることができた。科研費申請のための予備的な実験を行うことができ、採択につながった。他大学との共同研究でのデータ取得、解析が進み、論文投稿準備中である。(理系教員・女性)
- 支援員のデータ解析支援により研究が進み、海外の研究者との共同研究で扱うデータ解析結果を含んだ国際共著論文を掲載できた。様々な分析結果の解析が終了し論文投稿準備が早くなった。本制度を利用して得られた成果をもとに、論文を1本投稿済み、また、1本を作成中である。(理系教員・男性)
- 研究の資料収集やデータ整理、データの確認等、一人で行うと多大な時間を有することを研究支援員に行ってもらったことで、育児をしながら研究を進めることができた。制度を利用することで時間に余裕を持つことができ、論文作成のための貴重なデータや資料を得ることができた。(医系教員・女性)
- 短期間に多くのデータを集めることができ、助成金の申請書を書く時間もできた。学部で国際共同研究の管理を担当することもできた。研究支援員の支援を得て行ったプロジェクトに関する論文を1本執筆予定であり、また、新しいプロジェクトを書く計画もある。(医系教員・女性)

<研究支援員の声／従事した感想(抜粋)>

- 学部実習で行ってきた研究内容と似ていたため、比較的短期間で技術習得ができた。研究成果を出すには、時間がかかることを身をもって実感した。(医系学生(6年生)・女性)
- 自分自身の実験技術をさらに磨くことができた。自分の実験と並行して、先生の実験を補助することになったため、多忙ではあったが、その分時間配分を考えるトレーニングにもなった。今後、自分自身が同じ操作を必要とする実験を行うときに役に立つと考えられる。(理系学生(M1生)・女性)
- 行った業務に対して報酬も発生するのでモチベーションも低下することなく業務に従事することができた。また、自身の空き時間を無理ない程度に活用し、先生の研究に少しではあるが触れることが出来、良い経験となった。(文系学生(M2生)・女性)
- 携わった研究が自身の修士論文研究のデータのひとつとなった為、大きな影響を受けた。また、修士論文研究とは直接かかわらないものでも、自身の知見を広げるものとなった。(文系学生(M2生)・女性)
- 正直、今回携わった研究にこれからの人生で従事することは全く想定していなかったが、これを機に可能性が生まれた。どの道に進むか分からないが、この分野に対してポジティブな印象を持っていたので、人生における可能性が広がったように思う。(医系学生(4年生)・男性)

② 休暇期間中の学童保育

広島大学の構成員の就業と家庭生活の両立支援を目的として、小学校の長期休業中(春季・夏季・冬季)に、東広島地区(東広島キャンパス)と広島地区(霞キャンパス)で学童保育(子どもクラブ)を開設している。業者委託により、指導員(委託業者)と学生サポーター(広島大学で教職課程を履修中の学生などを委託業者で雇用)で運営し、学内施設等での体験学習(春は登山、夏はザリガニ捕りや野菜収穫、冬はしめ縄づくりなど)や屋内・屋外運動支援などを行い、本学学生の実習の場にもなっている。

	東広島地区(東広島キャンパス)	広島地区(霞キャンパス)
春季子どもクラブ	期間 2018(平成30)年3月26日～4月6日(平日8:00～19:00) 保育実績 本学教職員の学童27名(小学校1年生から6年生)	期間 2018(平成30)年3月26日～4月9日(平日8:00～19:00) 保育実績 本学教職員の学童41名(小学校1年生から6年生)
夏季子どもクラブ	期間 2018(平成30)年7月23日～8月29日(平日8:00～19:00) ※ただし、8月10日～8月15日を除く 保育実績 本学教職員の学童33名(小学校1年生から6年生)	期間 2018(平成30)年7月23日～8月30日(平日8:00～19:00) 保育実績 本学教職員の学童50名(小学校1年生から6年生)
冬季子どもクラブ	期間 2018(平成30)年12月25日～28日(平日8:00～19:00) 保育実績 本学教職員の学童13名(小学校1年生から6年生)	期間 2018(平成30)年12月25日～ 2019(平成31)年1月5日(平日8:00～19:00) 保育実績 本学教職員の学童29名(小学校1年生から6年生)

<利用者の声(抜粋)>

- しめ縄作りや野菜収集など、普段の生活では出来ない体験をさせていただき、また採った野菜までいただいて感謝です。おいしかったです。(保護者)
- 学内で散策(探検)できるのはとても良いと思います。特に総合博物館など。(保護者)
- 一人で留守番することなく親は安心して働けて、子どもは色々な人との交流と体を動かしたり、季節を感じる体験をすることができてうれしく思っています。(保護者)
- 病院屋上庭園や憩いの森などへの散歩や、学童サポーターも一緒に遊んでくれとても楽しかった。(学童)
- 毎日の勉強の時間があって良かった。(学童)



〈ザリガニ獲りの様子〉

③ 病後児保育利用料補助事業

広島大学の職員の子(6歳に達する日以降の最初の3月31日までの間にある子。)が病気や怪我の回復期にあるため集団保育が困難な期間について、病後児保育施設を利用した際に支払った利用料の3分の2を越えない額(10円未満切り捨て)と1,000円のいずれか低い額を、利用料補助として、1人につき、年間16回まで支援している。

<利用者の声(抜粋)>

- 病後児保育の補助事業があることで金銭面の補助だけでなく、大学として子供を育てながら働くということに対して支えがある心理的な面としてもとても大きいと感じています。
- 登園停止の疾病にかかった場合、長期間保育園を欠席する必要があるため補助事業は大変ありがたいと思います。

④ キャリア継続支援

博士課程後期合格者の入学料不徴収を実施

研究活動を中断中の修士の学位を有する女性で、本学の博士課程後期を受験して合格した者の入学料を不徴収とする経済的支援の募集(評議会で規則改正・要項等の承認、入試委員会で報告・周知、各研究科の募集要項に入学料不徴収のチラシを挟んで配布、ダイバー事業HPやダイバーシティ推進協議会で周知)

- 2019(平成31)年2月13日(水)入学料不徴収選考委員会開催(審査)
- 2019(平成31)年3月上旬入学料不徴収者へ通知
- 2019(平成31)年4月 入学者の入学料不徴収実施
- 実績:実施人数6人

キャリア・アドバンスメント・プロジェクト研究員(広島大学)を公募

キャリアを中断している博士号を有する女性のキャリア再開支援、及び広島大学に在籍する研究者の配偶者の研究継続・再開・同居をサポートする「キャリア・アドバンスメント・プロジェクト研究員(CAP研究員)制度」を導入した。

名称	CAP研究員(フルタイム)	CAP研究員(パートタイム)
公募対象者	キャリア中断中の博士号を有する女性	本学に在籍する研究者の配偶者(性別不問)
目的	研究継続を断念した女性研究者の研究活動の再開とキャリア形成を促進すること。(キャリア形成促進型)	配偶者の就職により自身のキャリアを断念した研究者のキャリア継続・再開を促進すること。(両立支援型)
経費	学長裁量経費	学長裁量経費
雇用期間	2019(平成31)年4月から1年間(更新なし)	2019(平成31)年4月から1年間(更新なし) ※週10時間以内

⑤ 男女共同参画意識啓発セミナー

- テーマ:「現代日本の学術分野におけるジェンダー課題 —男性学・男性性研究の視点をふまえて」
- 日時: 2018(平成30)年8月28日(火) 15:00~16:30
- 場所: 広島大学 東広島キャンパス法人本部棟4階会議室
- 講師: 伊藤 公雄(京都産業大学現代社会学部教授, 京都産業大学ダイバーシティ推進室長)
- 参加者: 55名(広島大学の教職員, 学生等)

■ 内容: 男女共同参画の問題は、女性の問題と思われがちだが、男性の問題でもある。男性の問題は、子どもの時代から定年後の男性の生き方で人生全体を通じて社会問題として現れてきている。国際社会の中での日本のジェンダーの状況を直視し、男性の意識や生き方について考え、男女ともにバランスのいい生き方をしていく必要があり、教育や研究に携わる大学において、この「男性問題の問い直し」をどのように取り組まれていくべきか等について、講演いただいた。

<参加者の声(抜粋)>

- 大変参考になりました。男女共同参画、女性の活躍を推進する上で、男性の立場を考えることは絶対に必要になると思います。その一助になったと思います。
- ジェンダー学の基礎から教えていただき、元々知識のなかった参加者にもとても分かりやすかったと思う。
- 男性学の視点での男女共同参画に関するセミナーは、とても新鮮でとても勉強になった。
- 世界的な動向、歴史的背景が分かりやすく説明されてとてもよかった。
- 先進国の中で日本の男女共同、ジェンダーへの取組が遅れていることに改めて驚かされた。社会のしくみ、職場の見えない制度を見直す必要があると感じた。



- **テーマ:**「多様化するジェンダー・アイデンティティと日本社会」
- **日時:** 2018(平成30)年11月6日(火)10:30~12:00
- **場所:** 広島大学 東広島キャンパス総合科学部 K111講義室
- **講師:** 石井 由香理(東洋大学社会学部社会学科 助教)
- **参加者:** 40名(広島大学学生, 教職員)

■ **内容:** 近年, LGBTの人びとが有する権利への関心が高まり, 社会問題への早急な取組が求められている。LGBTQと表記されることもあるが, Qとは, クィア(Queer)あるいはクエスチョニング(Questioning)などの頭文字をとったもので, 「男/女」, 「異性愛/同性愛」といった二元論で自己像を規定しない人たちのことを指す。本講演では, 特にジェンダーに焦点を当て, 自分の性自認を男性とも女性とも決めかねる人たちの自己像の特徴について, 日本社会を構造づけている男女二元論の視点から講演いただいた。



<参加者の声(抜粋)>

- ジェンダー・アイデンティティの問題は当事者だけではなく, 当人を取りまく環境, 社会の問題なのだと思えてきました。特に他人ではなく, まず家族の理解の必要性, 実際の理解のギャップ等, より身近に考えていかなければならない課題であると感じます。
- 当事者の声を交えられていて, 現在特にトランスジェンダーの方が置かれている状態がよくわかりました。また, 今後の課題として社会がどのように性的少数者を受容していくかが重要であることがわかりました。

6 第1回ダイバーシティ環境推進シンポジウム ~女性も男性もともに活躍できる社会を目指して~

大学をはじめとする教育機関及び企業の役員・管理者層をターゲットとし, 女性活躍のための組織制度のあり方について考える。また, 大学院生以上の女性研究者をターゲットとして, 自身が能力を伸ばして活躍するビジョンを描く機会と, そのためのネットワーク構築の機会を提供する。

- **日時:** 2018(平成30)年7月30日(月)13:00~17:00
- **場所:** 広島大学 東千田未来創生センター
- **参加者:** 80名(ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)事業の共同実施機関, メンバー機関, 全国のダイバーシティ事業に携わる機関, 本学教職員・学生, 一般の方)

■ スケジュール:

● オープニング・講演

開会挨拶: 越智 光夫(広島大学長)

基調講演: 山口 一男(シカゴ大学教授)

「女性が男性と同等に活躍する社会の実現には, どのような社会変革が必要で, その実証的根拠は何か?」

メタセコイア賞授賞式及び受賞講演: 松田 文子(福山大学長)

● パネルディスカッション

○ パネリスト: 石田 洋子(広島大学副理事(男女共同参画担当), 男女共同参画推進室長, 教育開発国際協力研究センター 教授)

高村 勝彦(マツダ株式会社人事室副室長)

鶴峯 美千子(一般財団法人国際開発センター 主任研究員)

○ コメンテーター: 山口 一男(シカゴ大学教授)

松田 文子(福山大学長)

○ コーディネーター: 坂田 桐子(大学院総合科学研究科 教授)

<参加者の声(抜粋)>

- 統計的手法を活用して, クリティカルシンキング的講演をしていただき, 納得性が高く, 大変面白く聞かせていただきました。
- 厳密な統計手法を駆使した, 説得力あるアカデミックなご講演だったと思います。
- 格差がどこから生まれるのかについて, とても参考になりました。
- 政策にとどまらず, 人生そのものをスクープにされた講演であり, 非常にわかりやすかった。
- 具体例, データに富んだ, 分かりやすいお話だったと思います。



(山口シカゴ大学教授による基調講演)



(松田福山大学長へのメタセコイア賞記念品授与)



(連携機関およびコメンテーターを交えたパネルディスカッション)